

令和6年度 総合教育会議 会議録

- 1 **と き** 令和6年9月25日（水）14:00～15:05
- 2 **と ころ** 大垣市役所4階 市長公室1
- 3 **出席者** 石田仁市長、豊田富士人副市長、細江敦教育長、河合保孝教育委員、堀哲也教育委員、沼口諭教育委員、松岡敦子教育委員
- 4 **事務局** 篠田企画部長、安田地域創生戦略課長、藤埴地域創生戦略課長、平松教育委員会事務局長、鈴木庶務課長、小倉学校教育課長、伊藤教育総合研究所長
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議 題** 大垣市の特別支援教育の充実について

7 会議録

発言者	発言概要
石田 市長	それでは、ただいまより、令和6年度大垣市総合教育会議を開催します。今年度の議題は、大垣市の特別支援教育の充実についてでございますが、委員と意見交換する前に、事務局から説明をお願いします。
小倉 学校教育課長	大垣市の特別支援教育の充実について 全国的に特別支援学級、通常学級両方において、特別な支援が必要な児童生徒が増加しており、専門的かつ、きめ細かな支援が困難となっている。 現在は、特別支援学級に在籍する児童生徒をサポートするために、介助員を28人、通常学級で学ぶ学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒をサポートするために、特別支援教育支援員を40人、医療的ケアの必要な児童生徒をサポートするために、看護師資格を有する特別介助員を2人配置している。 今後は、新たに、「推進チーム」を設置し、教育分野と福祉分野の連携、教員の専門性の向上及び支援体制の構築の取組を進め、特別支援教育の充実を図る。

発言者	発言概要
石田 市長 委員	<p>それでは、教育委員の皆様から、ご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>説明のあった特別支援教育の推進体制は、評価に値すると思います。その中で、特に重要なのは、特別支援学校の免許を有する教員を増やすことです。現在、この免許を持つ教員は非常に少なく、また経験の浅い教員が担任となるケースも多いため、有効だと考えます。</p> <p>かつては、「特殊学級」と呼ばれ、その名称だけで保護者が子どもを入級させず、普通学級に入れるケースが多かったように思います。しかし現在は、障がいをもつ子どもをしっかりサポートするための受け皿として体制が確立されてきました。そのため、全体的な児童生徒数が減少している中でも、特別支援学級の児童生徒数が増加している要因になっていると感じます。</p> <p>民間企業では、業務に必要な資格取得を促し、資格手当を支給することで社員のモチベーションを上げる取り組みが増えています。社員自身が自分の能力や知識を高めながら、やりがいを持って頑張る姿勢は良いと思います。</p> <p>この取り組みを特別支援教育にも展開し、経験の浅い教員を対象に、市や県の負担で免許を取得し、手当などを充実させてはどうかと思います。</p> <p>また、保護者にとっては、介助員や特別支援教育支援員、特別介助員など、その役割の違いや勤務する場所が分かりづらいため、分かりやすい名称が良いと思います。</p> <p>最後に、就学前の早期段階から、一貫した切れ目のない支援が必要と考えます。そういった点では、「推進チーム」により幼稚園や保育園と小学校をつなぐ支援体制を強化し、連携を深めていけたら良いと思います。</p>
石田 市長	<p>ありがとうございます。特別支援学校教諭免許は、どのような種類があるのですか。</p>
細江 教育長	<p>教員免許には、小学校は全教科、中学校は各教科別、特別支援学校は障がい種別ごとに免許があります。</p> <p>新たに免許を取得するためには、大学へ通う必要があり、そのハードルは高くなっています。</p> <p>また、大垣市文教協会では、教員を大学院へ派遣する事業を実施しています。</p>

発言者	発言概要
石田 市長	<p>教員が免許を取得するのは大変ですね。</p> <p>今は、たたき台の状態ですが、特別支援教育の充実に向けて、関係部署と連携しながら、一生懸命実施していきたいと思います。</p>
委員	<p>児童生徒数が全体的に減少する中で、特別な支援が必要な児童生徒数が増加していることに驚きました。また、それに反比例するような経験・免許の保有等の状況があり、きめ細かな支援と専門性の向上に課題があると思います。</p> <p>特別支援教育推進チームの設置については、これらの課題について横断的にサポート可能な新しい組織として有効だと思います。特に子育てに関わる関連機関・部局との共創はとても重要だと感じました。</p> <p>教育ソフトの導入により、個人のニーズに合った支援計画や教材の活用が可能となること、また、ソフトの活用により教員の専門性の向上に寄与することを期待しています。これらの構想を実効性のあるものにしていくためには、まずは、実証事業を成功させ、本格導入に向けての取り組みを進めていただきたいと思います。</p> <p>特別支援教育は、個別最適な支援が可能で充実していると思います。一方で、通級や交流、共同学習を通じて、互いに尊重し合い協働して生活していく態度を育むことも、進めてほしいと思います。</p> <p>切れ目のない社会の支援体制と周囲の人の支援が実現するインクルーシブな社会を目指していくには、就学時からの交流や互いに尊重し合い協働して生活していく態度を育むことが必要です。障がいのある子どもと共に学ぶ中で、公平な社会の構成員としての基礎づくりができると思います。</p> <p>人口減少社会の中では障がいのある方々とも協働して社会生活を維持・形成していかなければなりません。共生社会の実現には、様々な場面で力を借りなければならない社会となると思っています。全ての児童生徒が社会人となっても、こういった方々にどのような配慮が必要で、どのようにサポートしていったら良いかを学ぶことも大切だと思います。</p> <p>今後の取り組みがインクルーシブな学校運営と社会の実現につながることに期待したいです。</p>
石田 市長	<p>ありがとうございます。教育ソフトとはどのような機能があるソフトですか。</p>

発言者	発言概要
小倉 学校教育課長	<p>このソフトは特別支援に特化したものです。児童生徒の実態や課題を入力すると、その子に適した支援方法を提案してくれます。教員が作成する「個別の教育支援計画」の作成を支援するため、経験の浅い教員にとって特に有用です。さらに、多くの研修動画や教材の資料が収録されており、児童生徒に適した支援方法を容易に見つけることができます。先日の特別支援教育担当者研修会において実際に使用したところ、参加者から非常に好評でした。</p>
石田 市長	<p>先日、大垣市出身の大学教授と、子育て支援、教育や福祉に関して面談をしました。保育園・幼稚園・小学校が密接に連携している「大垣モデル」は、全国的には珍しく、その歴史について知る目的でお越しになりました。大垣市では、特別支援学校や福祉施設との交流が当たり前のように行われていますが、全国的にはそこまでできていない現状のようです。</p> <p>障がいのある子とない子が交流し、一緒に授業を受けるためには、お互いの理解が不可欠です。このような授業を行う教員の負担は大きいものの、適切な教育ソフトを活用しながら、子どもたちがお互いに寄り添っていくことが重要であると思います。</p>
委員	<p>児童生徒数全体が減少する中で、特別支援学級や通常学級における支援の必要な児童生徒数の割合が、年々増加している現状を知り、一刻も早い現在の教育体制の改善が必要であると感じました。</p> <p>同時に、そのような児童生徒が社会に出た際に、受け入れる社会の準備が必要となるほか、将来的には、教育カリキュラムの改革も必要ではないかと考えています。</p> <p>世界的には、インクルーシブ教育を推進していますが、大垣市においても、インクルーシブな感覚を持った教育を行う理念はとても重要だと思っています。</p> <p>交流および共同学習を進めるとともに、特別支援教育に直接関わる人材養成が課題となってきます。そのため、全ての教職員がインクルーシブ教育を学び、理解する研修会を定期的に行い、インクルーシブ教育を理解した学校運営を行うことが重要であると思います。</p> <p>また、インクルーシブ教育は児童生徒だけが対象ではなく、保護者支援も重要であり、保護者の方々の理解を得ることも不可欠です。同時に、地域社会にも理解や協力を求め、地域の企業や福祉施設、NPO、</p>

発言者	発言概要
	<p>地域コミュニティなどとも連携して地域で支える仕組みを整えることも重要だと思います。</p> <p>最後に、特別支援教育に関わる専門的な機関と連携し、知恵を出し合い、コーディネートするという横断的な役割はとても重要だと思います。</p>
石田 市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>昨年度は西濃学園と連携協定を締結し、不登校の児童生徒に対する接し方を教員が学ばせていただいております。研修等を通じて、教員の経験値を高めるために、これらの学びを役立ててほしいと思っています。また、多様性のある社会となっていく中、素晴らしい才能をもった子どもたちと、一緒に学んでいくための体制づくりに励んでいきたいと思っています。</p>
委員	<p>支援が必要な子どもが増加する一方で、対応できる教員が不足している現状において、支援チームの設置は大変有意義だと思います。経験や免許のない教員が一人で抱え込んで疲弊してしまわないよう、しっかりとしたサポート体制があれば、教員にとっても心強いものとなると思います。</p> <p>現場の教員が精神的にも時間的・物理的にもゆとりを持って子どもと関わることができれば、それは子どもや保護者にも伝わり、信頼関係の構築がより容易になると思います。また、その教員の関わり方を見て、周囲の児童も自然に適切な関わり方を学ぶことができるのではないのでしょうか。理想かもしれませんが、一つ一つの現場の雰囲気や、少しでも良い方向に変えていくことの積み重ねが、いじめや不登校など様々な課題解決の糸口にもなると思います。支援員・介助員の拡充や教育ソフトの活用も含め、ハード面・ソフト面ともに教員をサポートし、教員も子どもも、安心できる環境づくりが重要です。</p> <p>少し話題が変わりますが、私の所属する団体では、岐阜県の事業として、子育て支援従事者向けに、「発達障がいの子どもの関わり方」を学ぶ研修を行っています。講師は、大垣市でも活躍されている西濃圏域発達障がい支援センターの先生です。先生の『『困った子』は『困っている子』』という考え方に初めて触れたとき、目から鱗が落ちる思いでした。</p> <p>発達特性によって様々な行動を起こす子を「困った子」だと捉える</p>

発言者	発言概要
	<p>のか、それとも「その子は何かに困っていてその行動を起こしている」と捉えるのか、視点を変えるだけでも言葉がけや関わり方が大きく変わってきます。アンケートでも「受講して本当に良かった」、「もっと学びたい」という回答が多数あり、このような学びの機会が非常に重要だと感じています。多忙な教員が、学びを深められる機会が教育ソフト内でも提供されることを期待しますので、現場の教員がしっかり活用できるよう推進していただきたいと思います。</p> <p>また、この研修は受講希望者が大変多く、ニーズと関心の高さを感じます。受講者は、保育園等の保育士から放課後児童クラブの指導員まで、多岐にわたっており、対象とする子どもも幼児期から学童期まで幅広いです。一人の子どもが関わる場所も多様化しています。就学前からの切れ目ない支援、こども未来部など他部局との連携もしっかり進めていただきたいと思います。さらに、留守家庭児童教室の指導員の方への相談や研修の場も今後設けていただければ、指導員不足の解消や保護者と子どもの安心につながると考えますので、ぜひご検討ください。</p> <p>最後に、特別支援教育は、それぞれの子どもに合った学びができる大切な教育形態ですが、やはり世界的には、インクルーシブ教育の考え方が非常に重要です。そのためには、大垣市民全体の意識が高まり、そういった雰囲気が醸成されることも必要だと思います。大垣市全体として、このような取り組みが進められることを期待しています。</p>
石田 市長	<p>ありがとうございます。今後は、知恵を出し合いながら、確立していきたいと考えております。児童生徒は減少している中で、支援を要する子どもは増えてきている現状を踏まえ、支援員や介助員の業務内容や役割を見直しつつ、抜本的に変えていくことが重要であると思います。</p>
細江 教育長	<p>昔から特別支援教育は、教育の原点だという言い方がよくされています。特別な教育的ニーズがあるということは、障がいのある子だけではなく、実は、どの子にも当てはまります。子どもの数が減少していることを踏まえて、一人一人が大事にされる教育を実現させたいと思います。生きづらさを感じている子どもたちに、光を当てながら、きめ細かな支援を行う、そのような気持ちで特別支援教育を推進していきたいと思っています。</p>

発言者	発言概要
	<p>その意味では、今までも十分頑張ってきましたが、新たに、この「大垣モデル」として一つのチームを作って、そのチームを中心にして、教員の力も上げ、保護者の理解も得て、取り組みを広げていきたいと 思います。</p> <p>子どもたちを健全に育てるために、教育だけでなく、福祉や子育ての問題も含めて、長いスパンで見ていくことが大切であると思います。</p> <p>また、教員の能力を高めることも必要であり、障がいのある子だけではなく、少し困っている子たちへの支援や保護者へのフォローも必要です。そして、何よりも、このチームが大垣市の部局を跨いで動いてくれることを期待して、来年から少しずつ動き始めたいと思います。</p>